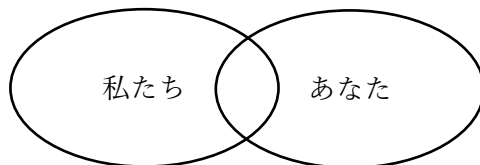


山本智子（2016）発達障害のある人のナラティブを聴く
－「あなた」の物語から学ぶ私たちのあり方－1章 ミネルヴァ書房

この題名を見たときの私の認識。

「私たち」：自分が分かっていると思っている人/その人こと

「あなた」：自分が分かっていない人/その人のこと



● はじめに －「あなた」の物語を聴かせてください

「僕はそういうところで生きていないのです」という言葉

→アスペルガー症候群と診断された藤本さん（45）。10数年間引きこもりとなった彼に、就労移行支援を利用し、専門的な知識を生かせば就職もできる。収入も増える。そうすれば結婚して家族を持てると言った時に語られた言葉。

「就職や結婚が幸せだと考えますか？やっぱりあなたもそうなのですか？僕はそういうところに生きてはいないのです。」

・自閉症スペクトラム障害は医学的に解釈できる。では、衝撃を受けた私の感覚はどう解釈できるか
→彼の障がいと特性からではなく彼が生きてきた世界、生きている場所からの言葉を聴いたのだ。

山本（2016：V）

障がいのある人は、「障がい者」として理解されがちですが、「障がい」は「あなた」の一部であり、「あなた」は誰かの子どもであったり、誰かの兄弟姉妹であったり、隣に住む人であたりすることを忘れてしまっていると感じることがあります。「あなた」を理解する上で、障がいを「あなた」が生きている世界の中で一部であるにとらえ、他の世界を知らなければ、「あなた」が今求めていること、感じていることを理解することはできないでしょう。

→「あなた」は障害の特性だけでは説明できない。そして「あなた」を理解できないということは「私たち」すらも理解できないことになる



<私たちの役割と責任>

私たちは、その個人が生きている文脈や関係性のあり方を、一見考慮しているようで、じつはそれらをしっかり見ていないような気がします。結局は、その個人の内部の問題として、「あなた」を取り巻く環境の一人である「私たち」の役割や責任を外側に置いて考えがちです。

例：友達と外で遊ばない。なぜ遊ばないのか。障がいがある理由では？コミュニケーションが苦手だからでは？友達がいないのでは？行きかえりに不安があるのでは？という外からの判断することでその人が生きている文脈を見つめようとせずに、外から判断しようとする「私たち」がいる。

本書は、障がいを医学・リハビリモデルからも、社会モデルからも接近しない。「あなた」が生きている文脈や関係性が「あなた」の世界にどのような影響を与えているか、「あなた」が生きているそのまの姿に迫る。

● 1章 当事者である「あなた」をとらえる視点 - 多様な意味を見落とさないために -

障がいに対する2つの考え方

中核症状 自閉症スペクトラム障害※であれ、社会的コミュニケーションや相互関係における持続紹介、限定された反復する様式の行動、興味、活動など

周辺症状 共通する症状ではなく、その人の取り巻く心理・社会的な環境が影響する症状

例えば、キレル、落第・大概、犯罪などは中核症状が直接的原因になっているのではない。彼らの中核にある特性に対して心理・社会的な影響を受けた結果、生じた周辺症状でしかない。

※ASD（自閉症スペクトラム）、ADHD（注意欠如、多動性障害）、LD（学習障害）の「D」つまりディソオーダー（disorder）とは日本語では「障がい」と訳されるが本来、無秩序、不規則を意味する。もともとは定型発達とは発達プロセスが異なることを意味するが、「障がい」と診断されることで傷つき、痛みを与えるのは障がいがある人が排除されてきた歴史や価値観が深く入り込んでいる。また、その一方で、「障がい」という診断を当事者が発達障害の定義を参照することでその特性に自らを近づける（自分自身を定義づける）傾向も見られる（例：メールの返信を送れてでもしていたのに診断後、「私は発達障害だからメールの返事をしなくても気にしないでください」のようになる。

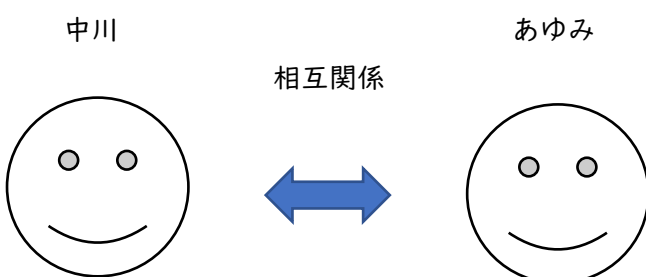
「当事者」とは

当事者による「当事者研究」 当事者が生きにくさの具体性や世の中をどう感じているか、当事者自身が言葉にしていく

当事者ではない誰か（たとえば、障がいがない研究者）による当事者研究

山本の立場（山本，2016:11）：

私が当事者である「あなた」をどのようにとらえているかといえば、何らかの事象を経験している人であると同時に「あなた」を取り巻く文脈や関係性、状況を含むダイナミックな存在として受けとめています。この本の題名では「あなた」という言葉を用いていますが、「あなた」とは私の目の前にいる障がいがあるその人の一部としてある人である、私たちとの相互関係の中で私たちの行為を反映する個人として現れてきた人を意味します。



中川から見て、あゆみさんの障がいはあゆみさんの一部であり、あゆみさんの中核症状、周辺症状からあらわれ、浮かび上がってきたものと言える。あゆみさんという「あなた」は私を含む「私たち」を通してこそ見えてくるものであり、当然、「あなた」には「私たち」、つまり自分や社会の態度や姿勢、視点などの影響を受ける。

山本の立場（山本，2016:15）：「当事者」という言葉には、個人でありながらその個人にかかわる「私たち」の行為を反映する存在と意味が含まれているため、この言葉を用いるときには、自分がどのように用いているかを慎重に意識しておきたい。（自分 VS 社会にも類似？）